

第8回行政評価委員会会議録

日時：平成30年10月17日（水）18時30分～20時15分

場所：伊予市庁舎4階大会議室

出席者：妹尾克敏委員長、倉澤生雄委員、管谷ゆかり委員、佐藤宏美委員、西田和眞委員、木本敦委員

事務局：空岡・小笠原・岡井

傍聴者：なし

1 開 会

会議の成立及び傍聴者はなかったことを確認した。

2 議 事

（1）①第7回会議録の確認

まず前々回（第6回）の会議録の確認を行い、その後No. 32からNo. 38までの7事業の外部評価を行った。その後委員会の日程の提案を行い、会は終了した。

委員から第7回会議録の事業内容の誤記について指摘があった。

②外部評価結果の確認…………… 2

③本委員会に対する提案、意見…………… 3

（2）次回の委員会…………… 8

（3）その他…………… 9

3 閉会

(1) ②外部評価結果の確認

(事務局)

お手元に配布した冊子をご覧いただきたい。こちらは前回までに外部評価の審議を行った38件の事務事業について、各委員の発言のうち、質問を除いた感想や提言を要約し、掲載している。資料の体裁については、表紙や委員構成、目次が入る形であるが、時間の都合で準備ができなかった。申し訳ない。本日確認いただいた後、体裁を整え市長への答申と考えている。また事務事業表記の前に行政評価委員会の意見を掲載することとしている。今年度の評価に関して、この後皆さんから意見を伺いたいと考えている。事務事業評価シートについては、審議に用いた3ページのシートから事務事業名や基本的な事項、予算等の内容を抜粋し、自己判定、一次判定、二次判定の要約を載せている。表の下から2番目の枠、外部評価の欄に委員から頂戴した意見を箇条書きで掲載している。それぞれの事務事業に対する発言に関し意見を頂く手法もあるが、事業の振り返りを含め、1事業ずつ事務局で読む形を取り、その時点で気になった意見があれば発言いただくこととしたいと思う。よろしいだろうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは早速No. 1のふるさと納税から説明していく。総務課所管である。

〔以降No. 1からNo. 38まで読み上げ〕

ところどころ文字が切れており申し訳ない。以上で報告を終わる。

(委員長)

何かお気付きの点はあるだろうか。毎年のことであるが、文字になると厳しく聞こえる。今全ての事業について読み上げていただき、それぞれ個々の事業について委員の発言内容を確認いただいたのだが、個々の内容について意見があれば、この時点でお願いしたい。

(委員)

よろしいか。クラフトの里管理運営事業(30ページ)の外部評価の一番下の意見で「駐車スペースは割合便利が悪い」という、委員会であった身障者用の駐車スペースがトイレから離れていることを指すと思うのだが、実は私も委員会前にシートや資料をチェックするに当たり、図面を見たときに身障者用の駐車スペースとトイレがすごく離れていると思って気になっていた。ただオープンしてまだ日が浅いのに、ケチを付けるようで言いにくいなと。また図面を見ただけで現地には行ってなかったのも、ここに駐車スペースを置く理由があるのかもしれないと思い、自分の発言の際には言えなかったのだが、その後あの場所はどうかと言われていたので、勇気を出して言えば良かったと思っ

た。その後クラフトの里、道の駅がオープンしてから現地を利用する機会があり、やはり気になったので自分の目で確認すると、やはり遠いなと思った反面、関連するそば打ちとか産直スペースとか、そういう施設の中心に駐車場があるので、どこに行くにも一番中心だからということでここにしたのかなという気もした。ただ実際にお手洗いを使いたい、一刻を争うというか車から降りてすぐトイレに移動できる位置が利用者の一番の願いだと思うので、今後利用者の意見を聞きながら、道の駅にテコ入れというか改修する時期が来たときに意向を汲み取っていただければと思う。

(委員長)

ということである。文字が加えられるようであれば、今の意見もお願いする。

(事務局)

了解した。

(委員長)

ほかにはないだろうか。よろしいか。今年は毎回議員の皆さんが傍聴していただいた。今までよりは伝わりやすいというか伝わるだろうと期待している。

(1) ③本委員会に対する提案、意見

(事務局)

今個々の事務について確認いただき、意見もいただいた。外部評価の結果報告については、文字切れや文章に矛盾する箇所もあったので、これから説明する内容と合わせ、再度委員へ報告する。

昨年委員の皆さまに委嘱をして2年経った。この2年を通した意見、感想で結構なので、意見を頂戴できればと思う。その意見やこれまでの感想を踏まえ、答申内容の「はじめに」という部分、ここで委員の意見を集約させていただいているのだが、その案として追加したいと思う。よろしくお願いします。

(委員長)

就任いただいて2年間を通しての行政評価に対するお気づきの点、あるいは感想でも結構である。順次発言いただきたい。

(委員)

2年間大変お世話になった。委員会に出席するまでは、住民サービス窓口の職員との関わりくらいで、あまり市役所の中核の職員がどういう仕事をしているか知る機会もなかったし、個人的にもあまり関心がなかった。今回の委員会で各部署の担当職員から直に取組の話が聞け、とても勉強になった。職員の中

には、配置換え等で着任早々委員会を迎えられた人も何人かいたのだが、前任者の引き継ぎをしっかりとされ、きちんと事業説明をされた職員は、すごく仕事をしているのだなと尊敬の気持ちで話を聞いていた。中にはすんなり分かりましたという答えがいただけなかった部署もありはしたのだが、次の会で追加説明があったり、事務局から役所の中でそういう問題意識を持ったりという話もあった。私自身とても有意義な時間を過ごせたと思う。事業シートや添付資料も1年目2年目と改良されており、最初はたくさん資料をいただいても、自分自身が十分それを読みこなすことができなかったと思うが、回数を重ねるごとに少しずつ見方も分かってきたし、担当の職員も一生懸命資料を工夫して、改良して準備してくださるのが分かり感謝している。

感想であるが、双海地区や中山地区は、同じ伊予市でも私が住んでいる地域から少し遠いので、その地域の事業について深い意見を述べるのが十分ではなかったと思う。実際にそちらの住民から話を聞くことができれば、もっと違う市民の声になったかなという感想を持っている。

今回市民の一人として参加させていただき、役割を十分に働かせたかどうかと言えば、力不足だったかもしれない。2年間の任期が無事に終わろうとしており、ほっとしている。

(委員)

今年の特徴として、部長職の方に座っていただき一緒に話を聞かせてもらう機会があった。時間的に長引いたせいもあり、部長から話を頂ける時間が少なかったのが少し残念であった。担当者の考えを越えた違う見解とか説明をフォローいただけると良かったかなと思うのが一点。

行政評価シートの中に効率性がある。給食のところ（学校給食センター運営事業）で1食当たりの話をさせてもらった。また下水ポンプの見直し（防災・安全交付金事業）でも費用対効果の話をさせてもらった。そういう安全・安心…だから行政がやっているというところはあるのだが、それに加えて効率性の面も少し指標として出していただくようにしてもらえると、効率面からも評価できるという、そういう事業が幾つかあったのではないかというのが二点目。

もう一点、今回の事業で言えばマイナンバー事務、ああいう性質の事業は、伊予市単独ではなく、よその調査をして、市町がどういった支出という、例えばこれもまた効率になるのだが、1件当たりの費用とか、職員1人当たりどれくらいの事務量をこなしているかという、横の比較が見えるようになれば、そういう事業にかけている行政コストが良いのか悪いのか、改善する余地があるのかという判断に役に立つのかなという気がした。以上3点である。

(委員)

評価シートは毎年改善されている。特に今年は関連する事業シートを付けていただいたことから、事業を議論する時に周辺の一つの塊として我々は理解できた。それからホームページの参考を書かれたり、添付資料も大分増えたりと、議論する上では非常に分かりやすかったという気がする。

行政評価の元々に、成果重視の行政と市の説明責任という2つを掲げている。我々は理解した上で議論したのだが、今度市民がこの評価シートをホームページで見たときには、細切れの評価シートとなる。そこが大きな塊になったときは理解しづらいのではないかという気がした。

また今回の委員会では、議員の方に全て傍聴していただいた。偏りはあったと思うもののやはり市の重要施策あるいは総合計画を紐解いて詳しくしていくということについて、議員も一つの事象についていろいろ議論はされていると思うけれど、体系的に市の重要施策を展開しているということは、なかなか理解がなかったのではないかと思う。今後議会を通じ、そういう市民に根差した議論が展開されていくのではないかという期待をしたい。

今回は財政が非常に厳しいということが随所に出ていたと思う。今後は市民を巻き込んだ議論にしていけないといけない。私は毎月の広報も見ているし、ホームページも見ている。関心がある人は見ていると思うのだが、市民全体でみると、それほど関心を持っているわけではないと思う。今後來年の消費税アップに併せて補助金を切るということで、一つのそういう切り口で大なたが振るわれれば、市民の関心も移るのではないかと思う。今は目先のことしか議論がないけれど、成果重視と言え、やはり10年先、20年先の伊予市がどうだという議論をしていただきたいと思う。大なたを振るってぐぐっと推し進めるのではなく、議論を通じて中長期にソフトランディングしていく形を取っていただきたいと思う。

(委員)

この事務事業評価を毎年取り上げていく中で、多分昔からやっている事業に関しては、事業の名称と内容がかなりずれているものがぱっと見で分かる。そういうものについては、何かやはりきちんと名称と内容が合うようにしていけないといけないと思う事業がいくつかあった。

あと、毎年スケジュールで事業の一覧を出してくれており、そこで一応重要だと評価しているもの、あるいは低評価ということで外部評価にかけている。それで外部評価にかけてみると辛らつな意見が一杯出ている事業もある。我々が意思決定できるところではないけれど、来年度になるとまた重要なので継続

するという素っ気ない回答があったりするとがくつとする。そこまでしつこく追いかけていただけるといいなと思った。したがって、この外部評価に上がっているコメントで辛らつなものが並んでいるものでも、重要になっているというのは少しずれていると指摘し続けてほしいと思う。

私もここで関わり始めて数年であるけれど、やはり繰り返しやっているだけあって、ほかの自治体の外部評価と比べてみると、かなり細かく突っ込んで見ている点では、ずっとやってきたところなのだなと思う。ほかのところの、あまり事務事業までは見ないのだが、最終的な評価を5段階評価のような感じで無理やり評価しているものは、良いのも悪いのものもあるけれど、外部評価にするとそんなにひどいとも言えないようになってしまう。それよりはこちらの方が細かい部分は良くできているなと強く感じるところである。

(委員)

2年間このような機会をいただいて、こういう場所で皆さんといろいろな意見交換ができたことに心からお礼を申し上げる。私自身あまりいろんなことに関心を持ってなかった身にしてみると、この席に座ってからは荷が重く、2週間があつという間であった。積み重ねたものが薄いためか浅はかな質問や失礼な質問も結構あつたと思う。改めて見ると、ほかの委員もおっしゃったように、辛らつな意見を出されたり、知らないからこそ言えたりということもある。一市民として、こういう視点の考え方もあるのかなという捉え方をしていただければ幸いである。

ちょうど1年前にこの評価を抜粋した冊子をいただき、その時とても感激したのを覚えている。今年度もこれをいただき、これだけのものが2年間、皆さんのいろいろな知識が凝縮した結晶としてできたというのは、私にとっては、学生時代以来一生懸命関わってきた事案である。今後事務局でいろいろ処理をして、市長の耳にも届くようになると思うけれど、願わくばこのような立派なものができたというだけではなく、何らかの形で市民に還元いただき、それがまた市民一人ひとりの目に見える形になることを楽しみにさせていただきたいと思う。どうもありがとうございました。

(委員長)

私は2、3あるのだが、まずは皆さんが口々におっしゃった年を経るごとにシートの中身が充実してきたこと。特に今回の補助シート、委員の指摘があつた参考とすべきホームページのここにアクセスしたらという、あの表示も非常に便利に使えることが分かった。さらに委員の発言にあつた部長の同席、私は同席していただいただけで一步前進だろうと思う。部長といえども温度差はあ

る。以前事務局をやっておられた部長はめちゃくちゃ熱心である。余計に分かっているからだろうと思う。そういうスーパーバイザー的な観点、よく言われる大所高所からの部長としての発言は不可欠である。議員の傍聴にも関わるのだが、思い付きを口にするのが議員の特権みたいなのところがあるけれど、そうではなく、やはり行政運営というか事務事業の推進には計画性や一貫性があるということは、今回傍聴していただいて多少は伝わったかなと思う。根拠法令であるとか、あるいは総合計画の中の位置付けであるというのを常に意識しながら、今後一般質問なり何なりをしていただければと思う。

次にこれまた委員がいみじくも指摘されたのだが、旧双海、旧中山の実態がよく分からないという点、これはやはり合併後の一体感が市民レベルでまだ実感できていないということである。つくづく思うのだが、いろいろな事務事業で中山はどうですか、双海はどうですかという質問をしないといけないというのは、やはりまだ馴染んでないのだろうと。ドレッシングの油とそれ以外の要素をその都度かき混ぜないといけないというのによく似ている。私は何度か合併協議会のときに擦り合わせておくべき事項ではなかったのかと申し上げたと思うのだが、やはりその辺が非常に、どう表現すればいいのか分からないのだが、残された大きな問題ではないか。給食センターの話では、自校方式である場合はそんなことなかったけれど、給食センターになったときに何がどう変わったか、メリハリを付けて説明いただくとストーンと納得するのだが、そうではない気がした。

ただシートの進化もそうだが、説明いただいた担当課の職員の皆さんも、良い意味で洗練されてきたのではないかなと思う。それはそれで意味があったのだろうと思う。委員が指摘になった、ほかの自治体は大したことやってないのではないかな、本当にそうである。冗談抜きにこれで終わりか、というものが大分ある。私に関わっている別の市では、行政改革の進行管理の一環として原案を事務局が作る。それで決定するだけである。それでも外部審議会が指摘したという体で、例えば施設の整理統合というものができた。一つのきっかけにするのに審議会を存分に使ってくださいと言っている。施設については、みんな既得権益は1ミリも譲りたくないという思いがあるようだが、そういう時代ではないということは、やはり共通認識として持つべきだろうと思う。今度の議会でどういう場面になるのか、どういう空気になるのか分からないが、伊予市行政評価委員会の個別具体的な事務事業評価というのは、自画自賛ではないけれども、私が知るところで20市町の中ではトップランナーである。委員長がそう言っていたと言われても結構である。

私も別にこういうものが専門でも何でもない。ある先生から同じことを5年やれば世間は専門家というので、無責任なことを言ってはいけないと先日の学会で叱られたところである。長くなって申し訳ない。本当にお疲れさまであった。このくらい熱心に議論が行われる審議会はほかに知らない。時間が時間であるし。ありがとうございました。

(2) 次回の委員会

(事務局)

委員会日程の前に、今後の進め方を説明する。本日皆さんから頂いた意見を取りまとめ、答申案を作成し、皆さんにお送りする。それを確認いただき、修正を加えて整えたものを市長への答申という形に代えさせていただく。それを踏まえ、本日配布した資料の最下段に最終判断というものがある。こちら市長、副市長、教育長以下部長級の職員で構成される経営者会議があり、ここで、自己判定から一次判定、二次判定、外部評価と意見を頂いた中でどのような方向に進めるのか決定させていただく。その結果をまとめて議会への報告、そして市民への公表としたい。

なお、この経営者会議は実は第1回が既に開かれている。平成29年度事業は598事業あり、この外部評価38件プラス公民館の2事業を合わせた40事業を差し引いた558事業については二次判定者から一定の方針が出されている。その最終判断をしていく際、昨年は二次判定者の判断に従うということであったのだが、今回は見方がおかしいのではないか、もう一度見直しをすべきという指示も出ている。従って次回の経営者会議は今回の外部評価にかかった事業を検討すると同時に、残りの558事業についてももう一度見直しをする流れとなっている。そちらについても次回の委員会の際に、議会報告と併せて報告させていただくよう考えている。

また別件で施策評価というものの、昨年の内容では、各課で重要な事業を選んでもらい、さらに経営者層で判定して、特に重要なものを今回の委員会で諮ってもらう形を取っていた。平成30年度からはその趣向を変えている。総合計画で指標を設定し、平成37年度に向けて目標達成に向けて頑張るという、施策的な指標を掲げている。すでに半期過ぎてはいるのだが、この指標設定に対し、どのように事業を進めていくか、どうすれば重点的に進めることができるかというのを、まず経営者層に決めてもらう。それが決まった後、その目標を達成するためにどの事業に力を入れていくべきか課に決めてもらい、事業を進めていく。今年が初めての取組のため、遅れ気味にはなっているのだが、そういう

進め方をしようとしている。これも第1回経営者会議に資料を出したのだが、そちらも見直しの指示が出ている。もう少し部長級で内容を精査しなさいとなっている。どういう形になるかまだ分からないのだが、次回の委員会には、その内容も含めて報告できればと思う。

次回の委員会と先ほど来申しているのだが、日程は特には決めていない。今の内容、また議会の報告も踏まえ、皆さんの委員任期は今年度で終わりであるが、次回の委員になる方への引継ぎというか、こういう事業を選定してはどうかという意見をいただきたいと思う。今まで2週間に1回という過密スケジュール、しかも長い時間議論いただいており、今次回の委員会日程を決めるというのも乱暴であるので、おおむね来年の1月ないし2月に開催という方向性だけ決めさせていただき、時期が近づいたところで皆さんの予定と相談した上で、日程を決めさせていただければと思う。

(委員長)

事務局から提案があった。そういうやりわりとした方向で予定していただければと思う。よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(3) その他

(事務局)

本日頂いた意見をもって資料を作成し、委員の了解を得た中で、早速次回の経営者会議に報告として出させてもらう。実は経営者会議でも、今度は外部評価が出るのだなと市長、副市長ら三役も楽しみにしているところである。本日伺った意見の中でも、部長の同席も含め、一定担当の努力もあり、おかげさまで職員全体の意識も大分変わったのではないかと、皆さんの言葉からも読み取れた。その分も経営者会議に伝えていきたいと思う。

財政的な部分では、特に補助金に関し、来年度は是非とも審議会にもっていきたいと考えている。先ほどの報告にもあったとおり、従来経営者会議ではあまり内容がひっくり返ることはなかったのだが、委員もご指摘の見せ方、説明責任は行政の不得意部分であったところであるが、少しずつであるが、こういう委員会を通じて改良されているのではないかと思う。また辛らつな意見との発言があったのだが、そういう部分、我々にはスパイスとして効いていく。そしてどう変えていくかが、今後大切になっていくと思う。

あと合併の課題については、いつまでも出てくるのだが、これも大きな問題である。こういう事業を通じた中で、歴史という部分も今後変えていく、変わ

っていくというのも決意的にはある。あと、先送りにいろいろしてきた部分で、最近変わってきているところは、皆さんまた市民の方に実感いただける取組にも進めていきたいと考えている。

本日は資料配布してから短時間である。お気付きの点があれば、後ほどメールでも何でも結構である。コメントをお伝えいただければと思う。本日も貴重な意見をいただき、総括した意見も事務局としてありがたかった。

以上である。